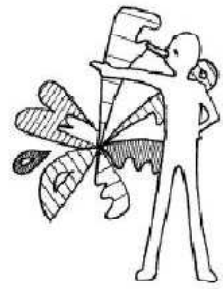


Freedom



こうこうせい じんけんこうほう し フリーダム だい ごう
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第14号

ねん がつ にちはっこう
2014年1月11日発行

へんしゅう フリーダム へんしゅう
編集 “Freedom” 編集 スタッフ

はっ こう な ら けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき にち じんけん たし ひ
毎月11日は「人権を確かめあう日」

しんねん
新年おめでとうございます。2面の記事『『ならサンウリム』に行きました』
とうじょう
に登場された、「ちゃんへん。」さんのプロフィールを紹介し、彼のTwitter
しよくぎょう だいどうげい さいねんしょう さい しゅつ
によれば「職業パフォーマー。大道芸ワールドカップ2002に最年少17歳で出
じょう せ かい こく こうえん おこな ちゅうりやく げんざい
場し、これまで世界60か国で公演を行う。（中略）現在、ディズニーリゾ
ととユニバーサルシティの専属として活動しつつ、イベント等にも出演中。
（<https://twitter.com/CHANGHAENG>）」とのこと。同時に、在日コリアン3世と
さべつ の こ たいけん かた じんけんこうえん かつどう
して差別を乗り越えてきた体験を語る、人権講演の活動もしておられま
ぎょうじ ゆた で あ たいけん
す。いろいろな行事で、豊かな出会いを体験しよう！



ぜん こく こう こうせい しゅうかい さん か 全国高校生集会に参加して

たかとりこくさいこうこう かいほうけん
高取国際高校 解放研

がつ にち がつついたち ふつかかん わたし ぶらくかいほうだい かいぜんこくこうこうせいしゅうかい さん
7月31日、8月1日の2日間、私は部落解放第45回全国高校生集会に参
か こうちけん い さんか こんかい はじ なに
加するため、高知県まで行ってきました。参加するのは今回が初めてで、何をす



るかなどだいたいは先生から聞いていましたが、ほんとうはあまりよくわかっていませんでした。

まず全体で開会行事が開かれ、解放歌を合唱したり、水平社宣言の朗読が行われたりしました。また、高知県で有名な、よさこい踊りなどの発表がありました。

そして場所を移動して分科会にわかれしました。私たち奈良県連は、第2分科会の「今の自分だからできる解放運動」に参加しました。移動した会場は、机がたくさん並んでいて真ん中にマイクがぽつんとおいてありました。その場所におよそ100人ほどの高校生が集まり、集会が始まりました。私は圧倒されるばかりでした。

まず高知県連と和歌山県連から報告書が読み上げられました。その後みんながそれについて意見を言うような形で進められました。100人近くいるなかで、手を挙げてマイクの前に立ち自分の意見を発表するということはとても緊張するし、そうかんたんにできることはありません。私は手を挙げる勇気がありませんでした。そんな中、会場にいるほとんどの人が手を挙げ、発表する姿を目にして驚くばかりでした。私と同年代の子たちがこんな風に自分の意見を持ち、はきはきと発表して思いを伝えていることに“すごい”という感情と同時に自分の無力さにショックを受けました。

私は中学校3年間、仲間と共に人権学習に必死に取り組んでいました。自分の意見も持ち、みんなの前で発表したりすることとして、自信满满で全国高校生集會に挑みました。それなのにみんなが発表している姿に圧倒されすぎて何もすることができなかつたのです。意見も言えず、手さえ挙げることができず、ただみんなが発表する意見をメモするだけで第1日目の分科会が終わりました。本当にショックでした。今までやってきたことは、ただの見せかけだけではないかと自分を責めることしかできませんでした。

それから夕食になりました。参加している学生みんなでバイキングの料理を食べました。席は抽選で奈良県連はみんなバラバラになりました。始めは嫌だったけれど、全国の同じように勉強している仲間と繋がるよい機会だと思いました。また、ビンゴゲームもして知らない子たちと楽しく過ごせることができました。

した。人権学習^{じんけんがくしゅう}ってかたくるしいイメージを持ちがちだけど、こんな風^{ふう}にわいわいしたりしてみんなと過ご^すせるのが全国高校生集会^{ぜんこくこうこうせいしゅうかい}のいいところだ^{かん}と感じました。

そして部屋^{へや}に戻^{もど}りのんびり過^すぎしていました。でも寝^ねる前^{まえ}になると今日^{きょう}の分科会^{ぶんか}で何もできな^かかった自分の姿^{じぶん}を思い出^{おも}すとなかなか寝^ねつけませんでした。そのことを、一緒^{いっしょ}にいた友達^{ともだち}に相談^{そうだん}すると彼女^{かのじょ}も同じ^{おな}じようなことで悩^{なや}んでいました。引率^{いんそつ}者の人も交^{まじ}えて3人で話し合^{はな}うことにしました。私^{わたし}は、何も発表^{はつぱう}することができな^かかった悔^{くや}しさを伝^{つた}えると、「まだあと1日あるから明日^{あす}がんばって言えば？」と言^いってくれました。それで私^{わたし}は決心^{けっしん}しました。明日^{あす}、今日^{きょう}伝えることができな^かかったことを伝^{つた}えようと。

こうして迎^{むか}えた第2日^{だい}目の分科会^{ぶんか}。ぜったい悔^くいだけは残^{のこ}したくないと思^{おも}い参加^{さんか}しました。でもやはりあの会場^{かいじょう}に入^{はい}るとすごくドキドキして不安^{ふあん}になりました。1日目^{いちにちめ}と同じように報告書^{ほうこくしょ}が読^よみ上げられました。そしてみんなが意見^{いけん}を言^いっていく中^{なか}である人^{ひと}が、「報告書^{ほうこくしょ}について意見^{いけん}を言うだけじゃなくて、それぞれ自分^{じぶん}が今悩^{いまなや}んでいることを発表^{はつぱう}したらいいんじゃないですか。」と言^いいました。



私^{わたし}は「今^{いま}だ！」と思^{おも}い手^てを挙^あげました。友達^{ともだち}と一緒に挙^あげたけど、ここで手^てを挙^あげて発言^{はつげん}することが自分^{じぶん}にとっての第一^{だいいっ}歩^ぽとなるのではないかと思^{おも}いました。そしてマイクの前^{まえ}に立^たち、発言^{はつげん}しました。高校^{こうこう}で解放研^{かいほうけん}に入^{はい}ったが部員^{ぶいん}がひとり^{こどく}で孤独^{ふあん}で不安^{ふあん}なことや、学校^{がっこう}での人権学^{じんけんがくしゅう}習^{しゅう}についてあまりみんなが関心^{かんしん}を持^もっていないことなど、今自分^{いまじぶん}が思^{おも}っていることを全部^{ぜんぶ}、マイクを通^{とお}してみんなに伝^{つた}えることができました。発言^{はつげん}しているときは何^{なに}が何^{なん}だかわからなくな^なって、泣^なきながら話^{はな}してしまいましたが、とにかくみんなに思^{おも}いを伝^{つた}えられたことがうれしくてたまりませんでした。

その後^ご、席^{せき}に戻^{もど}ると三重県連^{みえけんれん}の方が手^{かた}を挙^てげマイクを通^{とお}して私^{わたし}に向^むかって、「ここにいるみんなは、あなたの味方^{みかた}だから一人^{ひとり}じゃないよ。辛^{つら}くなった時^{とき}には今日^{きょう}のことを思い出^{おも}してね。」と言^いってくれました。涙^{なみだ}が止^とまらず、うなずくことしかできな^かませんでした。そう言^いってもらえてほんとうにうれしかったし、自信^{じしん}も持^もてたし、これから頑張^{がんば}っていこうと思^{おも}いました。

はじ さん か ぶ らく かい ほう ぜん こく こ う こ う せい し ゅ う かい わ た し せい ち ょ う
初めて参加した部落解放全国高校生集会は、私をととも成長させてくれた
おも
と思います。

た か と り こ く さい こ う こ う ね ん さ か も と り ほ
(高取国際高校2年 坂本 莉帆)

ぶ らく かい ほう ぜん こく こ う こ う せい し ゅ う かい ね ん ぶ らく かい ほう し ょ う が く せい ぜん こ く
※「部落解放全国高校生集会」は、1969年にはじまった「部落解放奨学生全国
し ゅ う かい ぜん し ん さ べ つ む あ さ べ つ が ん ぼ わ か
集会」を前身とし、差別と向き合い、あらゆる差別をなくそうと頑張る若い
せ だ い こ う り ゅ う ぼ ま い と し か く ち かい さい き ち ょ う たい けん つ う
世代の交流の場として、毎年各地で開催されています。貴重な体験を通じて
せい ち ょ う ひ つ し ゃ か つ や く き た い
成長した筆者のますますの活躍を期待します。

ね ん は つ こ う ほ ん し だ い ご う ぜん こ く こ う こ う せい し ゅ う かい さん か き け い さい
※2010年発行の本誌第4号にも、全国高校生集会の参加記が掲載されています。
かん し ん ひ と こ う じん き ょ う さん じ ょ う ほ ん こ う かん ぞ う
関心のある人は、高人教のホームページをご参照ください。本稿へのご感想
ま
もお待ちしています。

【コラム】 ネットおたくの見聞録 (その1)

ご ん べ え
U.N.権兵衛

こん かい は じ き じ か い た だ こ う こ う ね ん せい ね が
今回初めて記事を書かせて頂く高校3年生です、どうかよろしく願いいた
し ます。

が つ こ の か わ た し だ い かい し ゃ かい い ま
8月9日、私は第10回シンポジウム「これでいいのか ネット社会の“今”」
と いう も の に 参 加 し ま し た 。 こ の シ ン ポ ジ ウ ム を 主 催 し て い る の は 「 奈 良 県 市
ち ょ う そ ん じん けん どう わ も ん だ い け い は つ か つ どう す い し ん ほ ん ぶ れ ん ら く き ょ う ぎ かい な が な ま え だ ん たい
町 村 人 権 ・ 同 和 問 題 啓 発 活 動 推 進 本 部 連 絡 協 議 会 」 と いう 長 い 名 前 の 団 体 で、
「 イン タ ー ネ ッ ト ス テ ー シ ョ ン 」 を 開 設 し、 い わ ゆ る 差 別 書 き 込 み に 対 し て 削 除
かい せ つ さ べ つ か こ たい さ く じ ょ
要 請 を し て き た 団 体 だ そ う で す。

かい ほう けん き ゅ う ぶ こ も ん せん せい す す し じ っ さい い
解放研究部の顧問の先生に薦められてこのシンポジウムを知り、実際に行く
き っ か け と な っ た の で す が、 私 自 身 が 元 々、 大 人 達 が 集 ま っ て 語 り 合 う 光 景 が 好
わ た し じ し ん も と も と お と な た ち あ つ か た あ こ う け い す
きなのと、「これでいいのか」と言う挑 戦 的 な 題 名 に 惹 か れ た の も 大 き な 要 因
い ち ょ う せん て き だ い め い ひ お お よ う い ん
です。シンポジウム当日は燈花会があったので終わったら寄ろうかな、なんて考
え ながら 炎 天 下 の 中 を 近 鉄 奈 良 駅 から 文 化 会 館 ま で と ぼ と ぼ 歩 い て い き ま し た。

会場^{かいじょう}についてみると結構^{けっこう}人がいて『この暑い中^{あつなかあつ}よく集まるもんだ』と思^{おも}いました。私^{わたし}もその中の一人^{なかひとり}なんですけどね。さて、ここで一つ問題^{ひともんだい}が起こりました。どうやって受付^{うけつけ}をすませればいいのか分^わからない。普段^{ふだん}ネットばかりして人と面^{ひとめん}と向^むかって喋^{しゃべ}らないオタクで「ねらー」な私^{わたし}が初対面^{しょたいめん}の相手^{あいて}に喋^{しゃべ}りかけるなんて高度^{こうど}な技^{わざ}を持^もってる訳^{わけ}がな^ない。なので、5分^{ふん}ぐらいずっと人の動^{ひと}きを観^{うご}察^{かんさつ}していました。

(なるほど、どうやらあの紙^{かみ}に名前^{なまえ}やらを書^かいてあそこに渡^{わた}せばいいらしい)

「どうしました？」と声^{こえ}をかけられない内^{うち}にさっさと書^かいて渡^{わた}しホール^{はい}に入^{はい}りました。

優^{やさ}しさという名^なの凶器^{きょうき}ほど鋭利^{えいり}なものはありませんからね。

入^{はい}ってからまた問題^{もんだい}が起こりました、というより気^き付^づきました。(眼鏡^{めがね}忘^{わす}れた…)

私^{わたし}は眼鏡^{めがね}を掛^かけていなければ教室^{きょうしつ}の真^まん中^{なかに}程度^どの距離^{きょり}から黒板^{こくばん}の上^{うえ}に掛^かけられていた時計^{とけい}の数字^{すうじ}が見^みえなくなる程^{ほど}視^し力^{りょく}が悪^{わる}いです。パソコンのやり過^{すぎ}ぎです。パソコンのやり過^{すぎ}ぎです。はい、自覚^{じかく}してます。でも、やめられないとまらないかっばえびせんの魔力^{てきまりよく}があるんですよ。話^{はなし}がずれました。折角^{せつかく}来た^きのに見^みえないんじゃ意味^いがな^ない、ということで前^{まえ}から2列^{れつ}目の席^めに座^せります。渡^{わた}されたパンフレット^みを見てたらい^らいつの間^まにか開始^{かいし}の時間^{じかん}直^{ちく}前^{ぜん}になっていました。ここで改^{あらた}めてど^{ひと}んな人^きが来^きているのかチエックする為^{ため}に後^{うし}ろを見^み渡^{わた}します。席^{せき}がほとん^うど埋^{おどろ}ま^まっていて驚^{おどろ}きましたね。ど^{ひと}んな人^{たち}が来^きているのか見^みた結果^{けつ}、ほとん^かどが中^{ちゅう}年^{ねん}からお年^{とし}寄^よりでした。矢^や張^はり人^{じん}権^{けん}や差^さ別^{べつ}という事^{こと}が絡^{から}むとある程度^{ていど}歳^{とし}のい^{ひと}った人^おが多^{おほ}くなるのかな？と思^{おも}った矢^や先^{さき}でした。私^{わたし}と同じ2列^{れつ}目の右^{みぎ}側^{がわ}に小^{ちい}さな女^{おんな}の子^こを連^つれた子^こ連^づれのママ^いさんが居^いました。

(ほう、若い^{わか}のに、しかも子^こ連^づれか。いや、子^こ供^{ども}に留^る守^す番^{ばん}させ^ふるのが不安^{ふあん}なのかな?)

なんて色々^{いろいろ}考^{かんが}えているとビィィィィィ！という何^{なん}度^ど聞^きいても喧^{やか}しい音^{おと}がホールに鳴^なり響^{ひび}きシンポジウム^{はじ}が始^いまりました。以下^い次^か号^{ごう}

……こんな所^{ところ}で切^きってしまい誠^{まこと}に申^{もう}し訳^{わけ}ありません。シンポジウム^いに行^いったと言^いいながら全^{まった}く内^{ない}容^{よう}に触^ふれていませんね。

しかし私^{わたし}ではペー^{せい}ジ制^{げん}限^{げん}というラ^あスボ^らスには抗^{あらが}いよう^ががな^なk

「ならサンウリム」に行きました

11月10日、私たち香芝高校解放研は、活動の一つとして、「ならサンウリム」に参加してきました。「ならサンウリム」とは、1994年に天理大学南棟グラウンドで初めて開催されて以来、20年間続いてきた、多文化共生の祭りのことです。会場の奈良県人権センター内には外国の言語に翻訳された日本の歌が流れ（「崖の上のポニョ」がスペイン語で流れていました。）、外国にルーツを持つ人々が数多くの店を出していました。天気は良くなかったのですが、非常に活気があり、店の方々も私たちに優しく接してくれました。在日外国人が集まり行われるこの行事は、多くの国の方々が出て、それぞれ異なる文化で、価値観も違う



と思うのですが、皆が一体となっていると感じることができて、楽しみながら、世界中の食文化や楽器、遊びなどを体験しました。

これからの日本社会は、多くの異なる文化を持った外国人と接する機会が増えると思うのですが、ともに生きていく上で異文化を理解するのが大切になってくると思います。今回参加した「ならサンウリム」で、多くの文化を知ることができ、その大切さがわかったように思います。

「ならサンウリム」にゲストとして登場され、見事なパフォーマンスを披露された、「ちゃんへん。」さんにインタビューしました。

Q ジャグリングを始めた理由は何ですか？

A ジャグリングの世界大会を初めて見た時に直感でかっこよくて、やってみたいと思いました。ショーというのは、しゃべることが中心と聞いていたのですが、音楽に合わせてやっているのを見て、概念が吹き飛ばされました。

Q 練習に6時間かけたりと非常に苦労されていると思うのですが、力の源は何ですか？

A 練習でしんどいと思ったことはないです。（笑）自分の好きなことなので、夢中でやっています。

Q 最後に夢を実現した「ちゃんへん。」さんだからこそ言える夢を実現させる

ための高校生へのアドバイスを願ひします。

A 僕が言えることは、「嫌なものでも積極的に」ということです。僕も苦手なジャグリングの技の練習があるのですが、そういうことも積極的にやっていたら、苦手を克服することも、また好きなものもより好きになることにつながるので、とりあえず嫌なことでも積極的にしてほしいです。



(香芝高校3年 飛多 亮佑)

【高解研の活動を紹介します！】

昨年(こぞ)の2月3日(にち)、私(わたし)たち当時の1年生(男子2名・女子2名)は、桜井市中央公民館で開催された高解研の研修・交流会に初めて参加しました。

午前(ごぜん)の研修会(けんしゅうかい)では、スクリーンに映し出された『だまし絵』などを見ながら研修を受けました。だまし絵では、その人の思い込みや目の錯覚などで、それぞれに違った絵に見えていたり、あるいは反対に見えなかったりしていました。1つの絵の中にもう1つの絵が隠されているだまし絵は、人それぞれに見え方があり、とても考えさせられ勉強になりました。

研修後、手打ちうどん作りで交流会をしました。同じ高校の生徒が重ならないようにグループ分けがされていたので、最初は知らない人ばかりで緊張しましたが、自己紹介をしたり、グループ対決で大きな声を出したり、近くのスーパーへ買い出しに行ったりして、段々と緊張感(きんちょうかん)は解消され、やがて“なかま”意識が芽生えてきました。その結果、うどん作りはとても楽しく体験することが出来ました。出来たうどんは、麺の硬さや太さなどに少しバラツキはありましたが、「ぶっかけ」や「釜揚げ」など、食べ方や味付けには各グループごとの



工夫が見られました。この交流会では、初めて会った人達と協力してうどん作りを行い、一緒に楽しく頂くことができ、『協働』という今回の研修会のテーマが合っているなど感じる事ができて良かったです。

今回の研修・交流会に参加して、たくさんの人と交流・協力し、みんなと仲良くなる事が出来たので良かったです。今回の経験を今後の高校生活にも生かして行けたらいいなと思っています。

（奈良情報商業高校 人権クラブ）

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。今年の第2回研修・交流会は2月2日（日）。参加をお待ちしています！

高校生の人権広報誌 “Freedom” 第14号（2014年1月11日発行）

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県人権センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※ 本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。（「高人教」で検索してください）

※ 本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。